



## 院長のご近所探訪

～吾妻橋からアサヒビル本社ビルとスカイツリーを望む～

言わずと知れたスカイツリーは当院からも歩いて行ける距離にあります。海外のお客様も多く訪れ、国際色豊かな下町の人気観光スポットとなっています。お奨めは「すみだ水族館」。他にも季節折々のイベントもあり、評判を呼んでいます。

## 年頭所感

皆様、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめに平成7年より掲げてきました当院の運営理念を、昨年秋21年ぶりに改めました。新しい運営理念は「リハビリテーションを通して患者さんが生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療を提供し、福祉・介護との連携推進をはかる。」です。2025年に向けた地域包括ケアシステムの構築実現をめざすべく、運営理念に福祉と介護の連携推進の文言を加えました。

当院では東京都と東京都医師会とが締結した業務委託契約により区東部地域リハビリテーション支援センター業務を地域リハビリテーション科が行っていますが、高次脳機能障害支援普及事業、介護予防における地域リハビリテーション促進事業、若手療法士の実務研修もあわせて行っており、墨田区、江東区、江戸川区のリハビリテーション医療の中心的な役割を担っています。当院の名称には「都」が入っておりますので、もちろん区東部のみならず広く東京都全体のリハビリテーション医療のレベルアップにも貢献しています。

また当院は東京都地域医療構想調整会議の回復期機能の墨田区代表に選出されました。この会議は東京都地域医療構想において掲げたグランドデザインの実現に向け

て、地域ごとの自主的な取組を推進するため、医療機関のみならず医師会、病院協会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会等の医療関係団体や区市町村、医療保険者等の多くの関係者間での協議を行うことを目的としており、今後は地域及び医師会との連携をより強化・推進していきたいと考えています。

なお、昨年4月からは日曜、祝日を含む365日リハビリテーション訓練を開始しており、入院患者さんには十分満足していただける医療を提供できているものと自負しています。さらに昨年、病院全体で取り組みました日本医療機能評価機構の審査に合格し、引き続き5年間、主たる機能としてリハビリテーション病院、副機能として一般病院の認定を受けることができました。

超高齢社会となったわが国では、急性期医療から在宅復帰へ繋ぐ使命をもつ回復期リハビリテーションの需要が、今後ますます増えることと思います。東京都を代表するリハビリテーション専門病院として皆様の期待に応えていくために、職員一同、運営理念を心に銘記して励んでまいります。

今後ともひきつづきご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

院長 新井康久



## MSWの紹介

医療福祉連携室 相談科 医療相談

西原 大助



### 退院支援と診療報酬

医療機関で働くソーシャルワーカー（以下、MSW）にとって退院支援に関連する加算を中心に診療報酬が算定できるようになってきた事は率直に嬉しく思います。結果、各医療機関にMSWを配置する動きが急速に進んでいるのが現状です。

私は急性期の病院でこの仕事をスタートしましたが、当時の退院支援業務は病院にとって収益とは無縁の非採算部門であり肩身の狭い思いをした経験もありました。MSWの一人職場は当たり前、受け持ちケースが40件以上というのも日常であり、MSWを増員するための苦労話は当時のMSWなら誰もが共感できるほど深刻な悩みでした。今日ほど病院に複数のソーシャルワーカーを配置すること自体が当たり前ではなかった当時を思うと、今はとても恵まれた環境におかれているという思いを超えて、言い訳はできないという身の引き締まる思いもあります。つまり、退院支援に関する診療報酬の算定要件にMSWが加わった事はその仕事ぶりをアピールするチャンスであり、いい意味でも悪い意味でも注目されている事を我々MSWは意識する必要があります。医療機関で働く唯一の福祉職として、生活者の視点に立ったソーシャルワークを基本に、一つ一つの支援を丁寧に行い、相談支援の専門家としての存在意義を示していけるよう実践を積み重ねていく事が最も大切なことであると私は考えます。



### 地域連携

平成28年に新設された、退院支援加算Ⅰでは、「早期に退院支援が必要な方を入院して3日以内に抽出する」といった要件以外に、「20施設以上の医療機関や居宅介護支援事業所と年3回以上の面会（担当者会議など）」も算定要件となっています。よってMSWは病院の窓口として積極的に、紹介元医療機関のMSWや訪問看護ステーション、ケアマネジャー等の地域の方々と協働して退院計画を作る調整役を担うことから、多職種を繋ぐコミュニケーション力も高めなければなりません。特に、当院は回復期リハビリテーション病院であり、医療を軸にした連携と生活を軸にした連携と両方あり、日頃からの連携が鍵となります。この点、当院は周辺地域のケアマネジャーや地域包括支援センター、訪問看護ステーションの方々の地域力に恵まれています。様々な困難事例も退院前から顔の見える連携で乗り越えられてきたと実感しております。また、各地域包括支援センターの地域ケア会議や、行政主導の医療と介護の連携会議など熱心に取り組まれており、皆様に支えられ日常業務が成り立っている事を改めて本紙をもって御礼申し上げます。

最後に、掲載した写真は昨年12月に医療機関のMSWとの連携を目的に開催した、当院の見学会の様子です。当日は日頃交わすことのできない本音や、お互いの連携をより円滑に行うコツを情報交換でき有意義な見学会となりました。



## ～円滑な病院運営のために～



事務室 事務次長 田部 光宏

事務室は、庶務係、経営企画係、用度施設係、医事係の4つの係で構成されています。それぞれの係が重要な業務を数多く担当していますが、どのような業務を行っているのか、その一部を紹介します。

**庶務係**

人事、給与、服務、福利厚生、安全衛生、災害対策などを担当しています。

人事担当は、新たに優秀な職員を採用するため、看護師や療法士などの資格者養成学校への就職説明やホームページへの掲載など、様々な方法で募集活動を行っています。また、平成27年度に開始されたマイナンバー制度について、職員へ制度の周知を図りながら情報管理に配慮し適切に管理運営しています。

**経営企画係**

病院運営に関する企画や進行管理、予算決算などを担当しています。

適切な病院運営には、予算決算の進行管理が欠かせません。当院は、東京都から指定管理者として病院運営を任されています。また、東京都から地域リハビ

リテーション支援センターの指定も受けています。これらから当係では、東京都と調整のうえ進行管理を行い、当院の特性の発揮に寄与しています。

**用度施設係**

物品の調達及び賃借、業務委託や施設管理などを担当しています。

文房具の購入から高額な医療機器の購入やリース契約、建物管理や窓口業務の委託契約などを行っています。特に施設管理では、壊れた箇所の修繕や室内の改修工事を実施していますが、施設の老朽化が進んでいるため、設備の交換や修繕などの工事が増えています。

**医事係**

診療報酬（レセプト）の請求、受付窓口対応、入院退院手続き、診療録の管理、施設基準の届け出などを担当しています。

診療報酬（レセプト）を請求するには、算定要件を満たしているかを確認する細かいチェックが欠かせず、最終的には病院の収益にも絡む大事な仕事をしています。



3階事務職員

## ～消防対策に取り組んでいます～

当院では消防計画を策定し、院内での火災時における体制等を定めています。計画の中には自衛消防隊の編成や活動等も定められており、今年度も院内において、例年通り2回の消防訓練を予定しています。11月には夜間想定の実施、1月には昼間想定の実施を予定しています。夜間訓練においては、勤務している職員の人数が少ない中で如何に対応するかまた、昼間訓練であれば外来患者、面会者などが多数来院する中での適切な対応が求められます。毎年訓練を実施することで、課題を見つけ検討しながら、いざ火災という場面に備えています。

また、当院では院内での消防訓練に加えて、向島消防署が主催する自衛消防訓練審査会にも毎年参加しています。

今年度は11月22日（火）、旧向島中学校校庭にて審査会が開催されました。向島消防署管内の企業や病院等事業所から男性隊25チーム、女性隊6チームが参加し、日頃の取組の成果を披露しました。

当院からも毎年参加しておりますが、今年はリハビリ部から男性隊、看護部からは女性隊として各3名が参加しました。

今回の審査会参加に当たって、各隊員は勤務時間の調整を行いながら、数回にわたって消防署に通って、消防署職員の方から訓練指導を受けながら、事前練習を積み準備をしました。

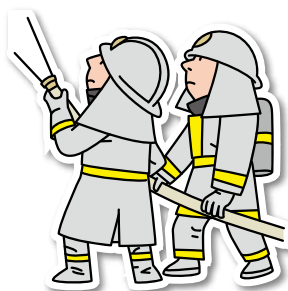
当日の審査においては「地震発生、身の安全を図れ」との掛け声から始まり、「火事だー、火事だー」と大きな声を出しながら、走り、重い消防ホースを運び、奮闘しました。

結果として、当院の男性隊が優秀賞を、女性隊は敢闘賞の成績を受賞することとなりました。

当院の火災・消防対策としましては、このような病院全体の消防訓練、向島消防署主催の訓練審査会の他、病棟単位など各部署においても実施しています。当院としては、これからも院内における消防訓練を繰り返し実施しながら、課題を検証し緊急時に備えていきます。



事務室 庶務係長  
田代 裕司





## 📧 平成28年度 区東部地域リハビリテーション支援センター研修会の開催

平成28年10月17日(月) 19:00~20:30  
 会場：東京都医師会 2階 講堂  
 講師：花川 隆 先生  
 (主催：区東部地域リハビリテーション支援センター\*1)

当研修会は、区東部（墨田区・江東区・江戸川区）を中心とした都内の医療・福祉・保健・介護・行政・関係機関職員を対象に、国立精神・神経医療研究センター 脳病態統合イメージングセンター 先進脳画像研究部部長 花川 隆先生をお招きして、「リハビリテーションに役立つ脳イメージング入門」をテーマに開催いたしました。



研修会の様子

当日は、107名に上る多くの方々にご参加いただきました。今回は、区東部だけではなく、都内全域の皆様もご参加いただき、「また区東部以外にもお声かけしていただけると嬉しい」「是非次回も参加したい」といったご要望を多く頂戴いたしました。次回は、平成29年4月13日(木)に、横浜市立大学附属 市民総合医療センター若林 秀隆先生をお招きして開催する予定です。詳細が決まりましたら、都内全域にお声かけする予定でありますので、よろしくお願いいたします。

最後に、区東部地域リハビリテーション支援センターとして、地域の介護・福祉・保健・医療に従事される皆様へより良い研修会を開催し、地域リハビリテーションの普及・啓発に努力して参りますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

\*1 区東部地域リハビリテーション支援センターとは  
 東京都では、地域リハ提供体制の連携強化を目的として、二次保健医療圏ごとに地域リハビリテーション支援センターを指定しています。区東部（墨田区・江東区・江戸川区）では地域リハビリテーション支援センターの拠点として東京都リハビリテーション病院が指定され、地域における様々な形で実施されているリハビリテーション事業を支援するため、研修会など地域リハビリに関する各種事業を実施しています。

### 当院並びに区東部地域リハビリテーション支援センター 研修会 開催予定

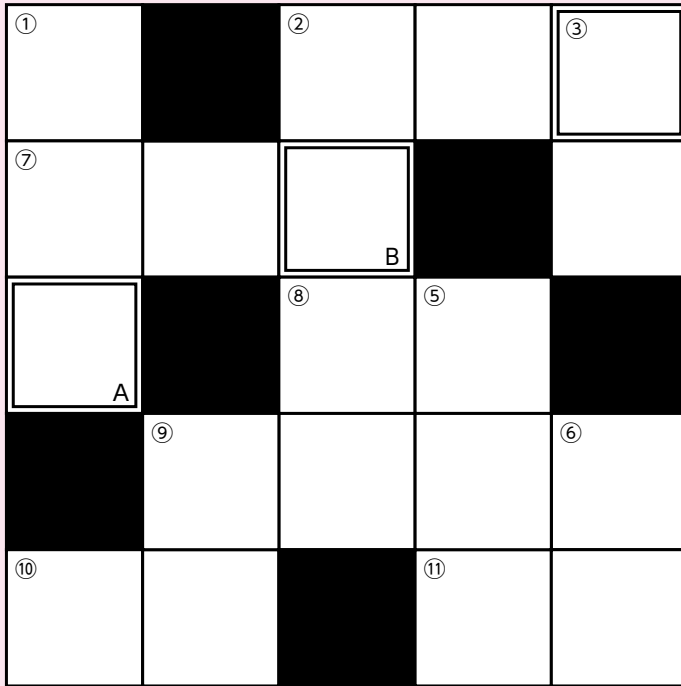
① 認知症事例検討会 ～『ひもときシート』を活用しよう～  
 日時 平成29年1月19日(木) 18:45~20:45 会場 すみだ産業会館 定員 65名 費用 無料

### 平成28年度 地域リハビリテーションセミナー 開催予定

	日 程	時 間	会 場	費用	定員
第6回	平成29年 1月16日(月)	18:30~20:30	すみだ産業会館 会議室4	無料	65名
第7回	平成29年 1月30日(月)	18:30~20:30	すみだ産業会館 会議室1・2	無料	85名
アドバンスコース	平成29年 2月 8日(水)	18:30~20:30	すみだ産業会館 会議室1・2	無料	85名
アドバンスコース	平成29年 3月 6日(月)	18:30~20:30	すみだ産業会館 会議室4	無料	65名

※開催日が近くなりましたら、関係施設様へのご案内をFAXにて通知いたします。  
 今までFAXによる開催案内の通知がなく、ご参加希望される場合やお問い合わせがある場合は、  
 区東部地域リハビリテーション支援センター事務局 (TEL:03-3616-8600 内線376) 担当 岡田までご連絡下さい。

ヒントをもとにマス目を埋め、  
二重マスの文字をつなげてください



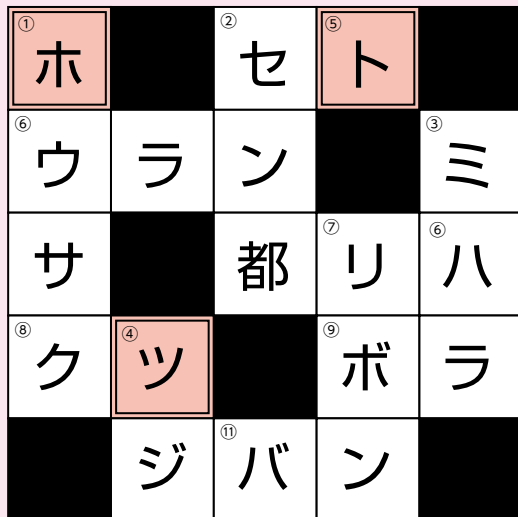
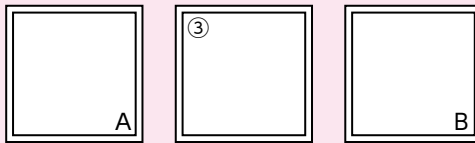
### タテのかぎ

- ①畑で栽培される稲
- ②〇〇第一高校はオコエ瑠偉の出身校です
- ③〇〇は道連れ世は情け
- ⑤物事のしくみや状況・意味がわかること
- ⑥神社などに参拝した時の運試し、おみ〇〇
- ⑨長寿を願って正月に飲む縁起物の酒

### ヨコのかぎ

- ②昔の子供はよくこれで遊びました
- ⑦ある数値にさらに別の数値を加えること
- ⑧今年の干支はこれです
- ⑨選挙速報では当選確実のことをこう言います
- ⑩人口が急激かつ、大幅に減少した状態
- ⑪物事の状態をそのまま続けること

答え:



### 【応募方法】

はがきに①答え ②郵便番号 ③住所 ④氏名をお書きのうえ、次の応募先へお送りください。  
正解者の中から抽選で10名様に500円のQUOカードをプレゼントいたします。

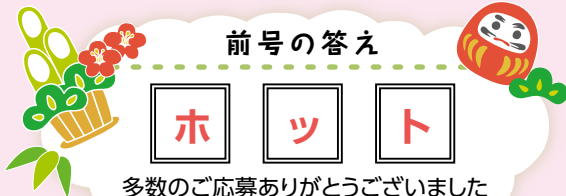
### 【締切】

平成29年2月6日(月) 当日消印有効  
※正解は次号に掲載いたします

### 【応募先】

〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1  
東京都リハビリテーション病院  
ほっとりハ編集係宛

### 前号の答え



多数のご応募ありがとうございました



# ご近所ネットワーク

## ～大東印刷工業（株）の取り組み～

当院で印刷物「ほっとりハ」などをお願いしている業者さんです。

### 1. 大東印刷工業（株）の歴史

大東印刷工業（株）は昭和25年に墨田区の向島に創業した商業印刷会社です。

スカイツリーが間近に見える立地に全ての製造工程（デザイン・編集・印刷・製本・加工・発送等）があるという23区内では珍しい印刷会社です。

大東印刷工業（株）では墨田区や各町会・自治会と連携し、様々な取り組みを行っておりますが今回は地域への環境配慮、地域防災活動とオープンファクトリーについて紹介します。

### 2. 環境に配慮した工場を目指して

都心部住宅街の中にある印刷工場として、騒音や廃棄物の「環境負荷低減」を第一に考えております。平成25年12月には社団法人日本印刷産業連合会による、印刷業務において総合的に環境に配慮した印刷工場を認定する制度「グリーンプリンティング工場認定制度」を取得し、常日頃、従業員への環境保全やリサイクルの意識の高揚に努めております。



新第二工場



グリーンプリンティング  
工場認定制度の盾

### 3. 地域防災活動について

東日本大震災の経験から「社内の防災・備蓄」だけでなく地域との連携やBCP（緊急時における事業継続計画の策定）の強化を継続して計画・活動してまいりました。

地域の防災訓練への参加や近所の小梅消防署と連携しての避難訓練やAED使用訓練等を評価され、墨田区長より昨年11月に『墨田区環境改善功労団体』の感謝状を頂きました。

これからも地域一体化で防災活動に取り組んでいきます。

### 4. 新第二工場竣工とオープンファクトリーについて

2016年3月に新第二工場が竣工致しました。新たな設備が稼働して、さらなる飛躍を目指しております。2016年11月には墨田区が開催する「スミファースミだファクトリー巡り」に参加して工場見学会を開きました。地域の方へ大東印刷工業（株）を知って頂く良い機会となりました。

墨田区には「ものづくり」にこだわった会社や工場がたくさんあります。大東印刷工業（株）は墨田区内の優れた工場、工房に負けないよう日々活動していきます。



オープンファクトリーの様子

# リハビリテーション看護学会学術大会 IN 沖縄

11月26日(土)、27日(日)に第28回NPO法人日本リハビリテーション看護学会学術大会が「リハビリテーション看護の新たな挑戦～Passion&Challenge」のテーマのもと沖縄で行われました。全国からたくさんの看護師が集まり、当院からも3題の演題を発表しました。来年はH29年11月10日(金)、11日(土)に当院が学会事務局となり、日経ホール(大手町)で開催する事が決まりました。テーマは「その人らしく 生きるを支える」としました。急性期、回復期、生活期、多様な病院から参加して頂けるよう、広報活動を行っていきます。皆様のご協力よろしくお願いいたします。

看護科 看護科長補佐  
蟻田 富士子

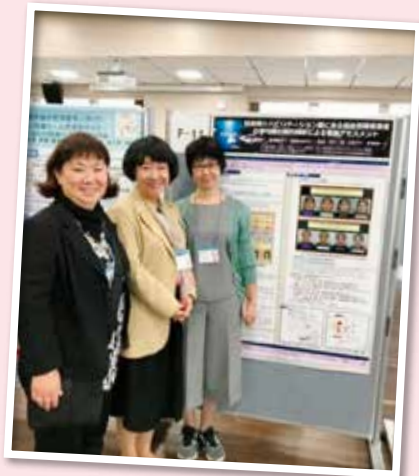
## 懇親会は海も山も臨める自然豊かな名桜大学で開催されました



大会長委嘱状授与式



第29回リハビリテーション学術大会ポスター



ポスター発表しました



迫力ある民族舞踊。  
小さい獅子にはなんと  
子供が踊っていました。

東京都リハビリテーション病院  
**ほっとリハ**

平成29年1月1日(日)発行

東京都リハビリテーション病院 広報委員会  
〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1  
TEL: 03-3616-8600 FAX: 03-3616-8705  
<http://www.tokyo-reha.jp>

編集  
後記

新年あけましておめでとうございます。  
輝かしい年頭にあたり皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。  
本年も内容を充実し、皆様のご要望にお応えすべく努力して参ります。

UD  
FONT

見やすく読みまちがえ  
にくいユニバーサル  
デザインフォントを  
採用しています。